



<研究主題> 一人一人が学んだことを実感し、自分から行動する姿を目指して
～各教科等の指導を支える自立活動の視点から～

今年度の研究もまとめの時期になりました。第6号から第8号は、全校授業研究会で話題になったことを今一度振り返ります。公開研、全校研での成果と課題を共通理解し、今後の研究に活かしていきたいと思ひます。

協議テーマ

- ・ 目指す姿が授業の中でどのように表れていたか
【一人一人（特に抽出生徒）が学んだことを実感し、気付いて考えて取り組む姿】
- ・ そのための手立て（学習活動、場の設定、教師の働き掛け）はどうだったか

★単元名★

中学部1年 生活単元学習 「チャレンジチューイチ！ようこそ！中1あまびえゲームランドへ～」

★公開研を受けて改善した点

- ・ 見通しのある活動からヒントをもらい、自分たちで決めたり選んだりする活動を設定する。→心が動く経験
- ・ 2年生をモデルに、一緒に取り組む。→実際にゴール（ゲームランドの開店）を経験し、感じたことを次に生かす展開、経験の積み重ね



★協議から★・・・改善の視点

- ・ 話し合いのポイントや目標を明確にし、1年生一人一人が生きる活動を。
- ・ 目標や話し合うポイントを明確にし、2年生や教師の役割の整理を。
- ・ 自分たちが楽しみながらできるゲーム作りを。



<指導助言> 秋田県総合教育センター 主任指導主事 神部 守 氏

- ・ ゲームは「楽しい」ことが大きな動機付けとなる。自分たちが作ったゲームで、自分たちが十分に遊んで楽しむ経験をする事で、改善案が思いつきやすくなる。
- ・ 自閉的傾向の生徒が多い学級では、学習の流れ、目標、ゴールを分かりやすく提示する。
- ・ 目標に対する評価をし、生徒の「やった」「できた」という達成感を保証する。また、実態と目標、手立てが一つのストーリーになっているかという視点で、授業を見直してみる。
- ・ 方法にこだわり、実際の学びがない授業にならないよう、授業づくりにおいては「子どもに力をつける」「子どもからスタートする」ことを大切にする。学習指導要領の要素を、目の前の子どもに落とし込む。

全校研を受けて改善した点

2年生のサポートを最小限に。1年生だけの運営を目指した支援の工夫。
生徒の発案や発想を基にした話し合いをする。話し合いのゴールは一つに。
自分たちが十分にゲームを楽しむ時間を確保する。

今後に向けて

- ・ 少人数のメリットを生かした機動力のある学習内容の設定
- ・ 少人数のデメリットを補完できる学部、校内、地域資源の活用



ボールを渡す役割に向かう姿